

## 【注射】 不活化インフルエンザ HA ワクチン

■対象者：生後6か月以上(種類によっては1歳以上)のかた

■用法及び用量

生後6か月(種類によっては1歳)以上3歳未満は各0.25ml、3歳以上は各0.5mlを、皮下に接種する。  
13歳未満は1～4週間の間隔で2回接種する。13歳以上は原則1回の接種とする。

■ワクチンの効果と副反応

予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることができます。

一方、副反応は一般的には軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2～3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛なども起こることがありますが、通常は2～3日で消失します。過敏症として、発疹、じんましん、湿疹、紅斑、多型紅斑、かゆみなどもまれに起こります。

強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出てください。

非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。(1)ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難など)、(2)急性散在性脳脊髄炎(ADEM)(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)、(3)ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、(4)けいれん(熱性けいれんを含む)、(5)肝機能障害、黄疸、(6)喘息発作、(7)血小板減少性紫斑病、血小板減少、(8)血管炎(アレルギー性紫斑病、アレルギー性肉芽腫性血管炎、白血球破砕性血管炎など)、(9)間質性肺炎、(10)脳炎・脳症、脊髄炎、(11)皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)。このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。なお、健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人又は家族が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うこととなります。

■予防接種を受けることができない人

- 1 明らかに発熱のある人(37.5度を超える人)
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3 過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことがある人  
なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いでください。
- 4 その他医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

■予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- 1 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
- 2 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人
- 3 カゼなどのひきはじめと思われる人
- 4 予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた人
- 5 薬の投与又は食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、身体に異常をきたしたことがある人
- 6 今までにけいれんを起こしたことがある人
- 7 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことがある人
- 8 妊娠の可能性のある人
- 9 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患のある人

■予防接種を受けた後の注意事項

- 1 インフルエンザワクチンを受けたあと30分間は、急な副反応が起きることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- 2 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- 3 接種当日は、接種部位の清潔を保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動はやめましょう。
- 4 万が一、高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 5 他の予防接種との接種間隔はありません。医師が認める場合は他のワクチンとの同時接種が可能です。

## 【点鼻】経鼻弱毒生インフルエンザワクチン

■対象者：2歳以上19歳未満のかた

■用法及び用量：0.2mlを1回（各鼻腔内に0.1mlを1噴射）、鼻腔内に噴霧する

■ワクチンの効果と副反応

予防接種により、インフルエンザウイルスに対する抗体ができ、インフルエンザにかかりにくくなります。一方、主な副反応に鼻水・鼻づまり（約60%）、咳（27.8%）、のどの痛み（17.9%）、頭痛（11.2%）等がみられます。まれに重大な副反応として、ショック症状やアナフィラキシー（顔面浮腫やじんましん）を起こす可能性は他のワクチン同様否定できません。

■予防接種を受けることができない人

- 1 明らかに発熱のある人（37.5度を超える人）
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3 過去にこのワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーをおこしたことがある人
- 4 明らかに免疫機能に異常のある人および免疫を抑える可能性がある治療を受けている人  
副腎皮質ホルモン剤（プレドニゾンなど）、免疫抑制剤（シクロスポリン、タクロリムス、アザチオプリン等）を内服、注射している人
- 5 妊娠している人
- 6 その他医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

■予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- 1 ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫等）等の過敏症のあった人
- 2 心臓や血管、腎臓、肝臓の障害や発育の障害などの基礎疾患がある人
- 3 他のワクチン接種を受けて、2日以内に発熱があった人や、全身性の発疹などアレルギーが疑われる症状がでたことがある人
- 4 今までにけいれんをおこしたことがある人
- 5 過去に免疫に異常があると診断されたことがある人や、両親や兄弟に先天性免疫不全症の人がいる人
- 6 重度の喘息または喘鳴の症状がある人
- 7 このワクチンの成分に対してアレルギーをおこす恐れがある人
- 8 鶏由来のもの（鶏卵、鶏肉など）に対してアレルギーをおこすおそれがある人
- 9 腎臓もしくは肝臓に障害のある人

■予防接種を受けた後の注意事項

- 1 インフルエンザワクチンを受けたあと30分間は、急な副反応が起きることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- 2 接種当日は、過激な運動は避けてください。また、接種直後と接種後5～14日の間は、健康状態に十分注意し、接種部位の異常な反応や体調の変化、高熱、けいれんなどの異常を感じた場合はすぐに医師の診察を受けてください。なお、接種当日の入浴は差し支えありません。
- 3 ワクチン接種を受けた人から周りの人へウイルスが伝染する可能性があるため、ワクチン接種後1～2週間は、乳児や重度の免疫不全がある人との密接な関係は可能な限り避けてください。
- 4 妊娠可能な人は、接種後約2か月間は避妊してください。
- 5 アスピリンやサリチル酸ナトリウム等のサリチル酸系医薬品、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を含む他の薬を使用する場合は、本剤を接種したことを医師に伝えて下さい。
- 6 接種医療機関以外を受診したり、他のワクチンを接種したりする場合は、必ずこのワクチンを接種したことを医師または薬剤師に伝えてください。
- 7 他の予防接種との接種間隔はありません。医師が認める場合は他のワクチンとの同時接種が可能です。
- 8 本剤接種後一定期間は、本剤由来のワクチンウイルスがインフルエンザの迅速検査で陽性反応を示す可能性があります。